

シミンのジリツを支援するNPO法人

シミンズシーズ

年次報告書 2022



／ 皆さまの支えで
／ 設立20周年！

2022 年度 報告とお礼

2022 年度は NPO 法人シミズシーズ（以下、当法人）にとって設立 20 周年となる節目の 1 年でした。20 周年を記念して開催した「シーズこれから会議」と題した活動報告と交流会では、会員、ボランティア、地域団体、行政、企業、元職員等 20 年の歴史のなかで当法人に関わっていただいた方々およそ 100 名がお集まりくださいました。子連れで参加できるよう保育メンバーによる子どもたちの遊び・体験コーナーを会場内に設け、参加者も一緒にシーズのこれからのアイデア出しをしていく、当法人らしい垣根を低くした「ごちゃまぜ」の場になりました。当法人が取り組む、まちづくりと活動支援、そして保育園が混ざり合う活動報告に、新たな可能性を感じていただけるひと時でもあったと思います。当日参加者以外にも各方面からお祝いを多数お寄せいただきました。多くの方に支えていただけていることに感謝するとともに、2022 年度の事業展開としては次の 10 年に向けて今後の方向性が明らかになりました。

5 期目の 2 年目となる東播磨生活創造センター「かこむ」（以下、「かこむ」）の指定管理事業は、コロナ禍からの復調の兆しが見えてきました。登録団体等の活動が活発になり、リアルな場や「つながり」を求める声が聞かれたことから「kaco-LAB. サロン」や「kaco-LAB. フェス」といった主催事業を企画する等、施設運営を活かした活動支援に取り組みしました。また、加古川市との共催による「かわのまちマーケット」を株式会社加古川まちづくり舎とともに開催し、「かこむ」だけでなく寺家町商店街や加古川市全域を見据えた一体的な市民参加型まちづくりへの展開も見えてきています。

かわのまちほいくえん運営事業は開園 2 年目を迎え、昨年度園児定員 19 名だったところから 29 名へと受け入れを拡大し、「まちの人と毎日をつくる」保育を模索しながら「かわのまちほいくえん」らしい保育が形になってきました。河川敷や商店街以外の店舗、路線バスや電車、公園や社寺、1 年目では出会えなかったまちの資源に気づき、まちで子どもたちが育つことの可能性や面白さを改めて感じています。今後、0 歳児から 5 歳児までが育つかかわのまちほいくえんならではの、就学やその先を見据えた連続性ある体系的なまち保育プログラムを形にしていきます。

2022 年度は上記に加えて団体や組織の活動支援依頼も増加しました。再開しはじめた従前の活動だけでなくコロナ禍で生まれた新たな社会課題に取り組む団体・組織や新たなコミュニティの拠点をつくらうとする動きが活発になり、それらに対する多様化する個々の課題に応じた丁寧な伴走型の活動支援の必要性が高まっています。

2023 年度は「市民参加型まちづくり」「まち保育」「伴走型組織支援」の 3 つをキーワードに、当法人の次の 10 年の礎をつくっていきたいと考えています。よりローカルに、より丁寧に、「誰もが市民という役割をたのしめる社会」づくりに取り組んでいきます。

NPO 法人シミズシーズ

2022 年度活動報告



もくじ

P.01 挨拶

P.03 シーズについて

P.04 ハイライト

P.05 事業報告…個人のジリツ

P.06 事業報告…市民のジリツ

P.09 事業報告…地域のジリツ

P.11 事業報告…団体のジリツ

P.13 事業報告…全てのジリツ

P.15 法人運営

P.16 講師派遣一覧

P.17 決算報告

P.18 2023年度事業計画

Vision

誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ

Mission

シミンの自律と自立を支援する

Service

" たのしい " のプロデュース

人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけを企画するのが私たちの仕事です

- 市民参加の企画・プロデュース
 - チームブランディングプログラムの提供
 - コミュニティプランニング
 - ファシリテーション
 - コミュニケーションデザイン
- など

Field

シミズシーズはシミンの自立と自律を支援する5つの事業を展開しています。シミンのいるあらゆるフィールドが、私たちの活動領域です。

2 市民のジリツを支援する プロデュース/ネットワーキング事業

Field 2 citizenship

市民一人ひとりの力を活かして「参加できる場」をつくる企画事業を展開しています。「県立東播磨生活創造センター『かこむ』」は開設から運営に携わり、丸13年が経過しました。

4 団体のジリツを支援する NPO等支援事業

Field 4 organization

自律的にスタッフが運営に携わり、チームとして1つになれるよう、チームづくり、理念づくり等の研修プログラムを提供しているほか、NPO等の設立相談やネットワーク化など、NPOや行政、社会的活動のサポートを行っています。

1 個人のジリツを支援する 人材育成事業

Field 1 person

学校での参加型プログラム、インターンシップの受け入れを通じて、これからの地域や社会に関わる上で必要な、自ら考え行動する力をつけるための「学びの機会」を提供しています。

3 地域のジリツを支援する コミュニティ創造事業

Field 3 local community

さまざまな主体が、地域の問題解決に向けて「自分ごと」として取り組める「場や機会」を提供することで、地域住民中心の地域づくり、コミュニティづくりを行なっています。

5 すべてのジリツを支援する 環境整備事業

Field 5 environment

多様な人を巻き込みながら社会やまちのことを「自分ごと」に感じ、思う人をジリツした市民ととらえ、そのための環境や仕組みを整えていくための取り組みや、各種講師・ファシリテーター・委員等の派遣を行っています。

2022 年度 シミズシーズ ハイライト

2022 年度にシーズで起きた出来事を
5 つのトピックスにまとめました♪

1 シーズ 20 周年記念 「シーズこれから会議」開催 & HPリニューアル

2022 年 6 月に 20 周年を迎えました。20 周年の節目に、シーズのこれまでを振り返りこれからを考える「シーズこれから会議」を開催し、HP をリニューアルいたしました。「シーズこれから会議」では、幅広い年代・属性の方約 100 名が集まり、今後の展開について話を深めることができました。今後の継続的な応援につながり、自分たちの活動の意味や成果を改めて考え、活動への意欲を高める機会となりました。



2 「かこむ」登録団体が 一堂に集まる kaco-LAB.フェス初開催

新たな選択肢を増やしてもらうことを目的に、交流と体験によって活動を知ってもらう「kaco-LAB. フェス」を初開催しました。「かこむ」を拠点に活動している団体やボランティアなど多数の方が関わって作り上げることができ、当日は 988 名の参加者が訪れ、新たな出会いや発見を生み出すことができました。



3 まちの人と毎日をつくる 「かわのまちほいくえん」 2 年目に突入

まちの人と毎日をつくる保育園として開園した「かわのまちほいくえん」も 2 年目を迎え、在園児数も 29 名となりました。河川敷や路線バスなど新たな「まちの資源」の発見や気づきとともに、資源の活用が子どもたちの育ちにとって有用性が高いことを改めて感じることができました。「かわのまちほいくえん」らしさある保育が少しずつ形になった1年となりました。



4 かわとまちをつなぐ 「かわのまちマーケット」 を開催

加古川市が取り組む「かわまちづくりプロジェクト」の一環として実施しました。準備から出店者・ボランティアと企画ワークショップを行いみんなでつくるマーケットを目指し、出店者 72 店舗、20 名のボランティア 5,471 名の来場者が訪れる大型イベントとなりました！



5 伴走支援のサービス内容が 団体に合わせて多角化。 提供価値を高めています

今年度は4団体に向けてブランディングや組織基盤整備のための伴走支援を行いました。これまでの理念づくりに留まらず、会則の策定、業務フローの可視化、ロゴやリーフレットの作成、団体のらしさを特定するために客観的なデータを分析・可視化するなど、支援内容の幅が広がっています。





地域の探究の達人の話を真剣に聴く、加古川南高校の1年生

学校への参加型プログラムの提供事業

DATA

兵庫県立加古川南高等学校 総合学科

2年 探究の達人から学ぶ 2回
「探究の入り口」

兵庫県立農業高等学校 定時制課程

4年 シミンのジリツ講座 6回

兵庫県立農業大学校

1年 キャリアデザイン 4回

兵庫大学

コミュニケーション論 15回

探究プログラムを200名に提供

学習指導要領の改定に伴い高等学校では2022年度から「総合的な探究の時間」がはじまりました。この新しい授業は、自己の在り方や生き方を考えながら、自らテーマや課題を設定し、教科横断で総合的に社会と接続した資質・能力を育成することを目指すものです。

昨年度の東播磨県民局委託事業「人・まちわくわく学び塾事業」が発展する形で、今年度は加古川南高等学校から依頼を受け、2年次に「総合的な探究の時間」が本格的にはじまる前段階の1年生200名を対象に特別授業を企画、実施しました。2年次からの学びに活かせる「探究テーマのを見つけ方」や「課題の深め方」等のヒントを得ることを目的に、仕事やライフワークを通して探究が続いている地域の大人6名をコーディネーターとし

た。全員に向けた大人からの話題提供、40名ずつに分かれ生徒主体で大人に聞いてみたいことを投げかける質問会、個々に気づきを振り返る個人ワークという3部構成で授業プログラムを組み立てました。自らの興味関心と近しい大人の話を聴きながら、自身の考えを巡らせ学びを深めていきました。生徒からは「苦手なことを追求する考えはなかった」「好きなことから学びを深めてみたい」といった感想が寄せられました。

自己の在り方や生き方を考えながら自らの興味・関心に合わせて探究していくことは、まさに自律に向かうプロセスそのものです。地域人材のコーディネーターと主体的な参加を促す学びのプログラム設計といった当法人のノウハウを活かして、今後も探究授業を通じたジリツの支援に取り組んでいきます。

インターン受け入れ実績／

加古川市立加古川中学校
加古川市立氷丘中学校
明石市立大久保北中学校
NPO 法人ドットジェイピー(大学生)
姫路大学、神戸学院大学、関西大学
関西学院大学、県立加古川南高等学校
(株)KEG キャリアアップアカデミー(社会人)
あかし若者サポートステーション
就労移行支援事業所リタリコワークス明石
就労継続支援B型事業所アステル
お仕事体験隊 (障がいのある中高生)
個人(未成年者・保護者同伴)

インターンシップの
受け入れ人数は
今年度35名!

若者がまちとつながる場をつくる



誰と一緒に活動するか参加者で話し合い

「東播磨『人・まち』わくわく学び塾事業」は、進学や就職により地域を離れる可能性のある若者を対象に、東播磨地域への愛着を深め、地域づくり活動への関心を高めることを目的に、兵庫県東播磨県民局からの委託を受けて実施しています。地域や大人と関わる機会が少なくなっている若者に対し、地域との接点を増やすことで関心を高められるよう、「まちマチゼミ」「まちマチトーク」の2つを企画しました。

8月～10月に「まちマチゼミ2022」を開催し、学生がグループごとに課題を考え、地域でのヒアリングなど調査を実施、地域の人に向けて活動発表を行いました。高校生・高専生の参加者と大学生によるチームでの活動を行いました。

まちマチゼミ終了後はまちへの接

点を今後のつながりとして継続させていくためにまちづくりに関心がある若者の交流サロン「まちマチトーク」を12月から月1回開催しました。過去のまちマチゼミの参加者や、東播磨生活創造センター「かこむ」でのボランティア経験者などこれまでのつながりから高校生を中心に学生が友人らと一緒に参加してくれました。

まちに関わる接点の作り方を工夫することで、広い視野での関わりや深い関係づくりを行うことができました。今後もまちづくりへの関心を形にしていける場として、ワークショップの開催や学生が参加したい活動につなげていけるようコーディネーターを行っていくことで、今後まちと若者の関わりを深めていきます。

DATA

まちマチゼミ
2022の開催

開催回数 4回
参加者数 8名

まちマチトーク
の開催

開催回数 4回
参加者数 33名

地域団体と企業のコーディネート

市民活動やNPO、サークル活動にとっては、自らの活動をPRする機会が多くありません。一方で、地元企業にとっては、地域活性化の取り組みは不可欠な要素となりつつあり、事業に取り入れる企業が増えてきています。当法人のコーディネート事業では、市民の活動と企業をマッチングすることで、活動場所の提供と、地元企業の地域貢献を後押ししています。

6月に稼働した広域ゴミ焼却施設「エコクリーンピアはりま」では、市民に親しまれる施設を目指し、地元団体による「環境学習リサイクル講座」を企画。当法人が講座内容の提案と、講師のコーディネートを行いました。

施設の認知度を高めるため、ものづくり・講演・映画上映・ボードゲーム開催などあらゆる形態で提案

し、講座のニーズを確認する1年目。環境団体やエシカルなワークショップを開催する講師だけでなく、ものづくり中心の講師へ新しいチャレンジの場としてコーディネートをしました。

環境に配慮したワークショップの企画を通じて、講師自身が材料の由来や作った後の作品の行方までを考えるきっかけとなりました。本コーディネーターを通じて、「自分もSDGsとつながった活動ができる」と知れて身近な目標となった。「今後の自身のワークショップの幅が広がった」など、講師たちが新たな活動へ発展する後押しができました。

地域密着に加え、環境への意識の高まりを期待する施設が目指す方針が具現化するようサポートしつつ、活動の後押しにもつながっていきます。



環境学習リサイクル講座の様子



体験 & 交流イベント「kaco-LAB. フェス」での「ごちゃまぜ交流会」の様子

東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営事業

出会いと交流、体験を一緒につくる「場づくり」に注力

2022年度はコロナ禍の影響により減少していた登録団体をはじめとする市民の活動に回復傾向が見られはじめ、今期当法人が掲げている「かこむ」のコンセプト「新しい自分と出会える施設」へとつながっていく「交流」を強く意識して事業に取り組んだ1年でした。生活に新たな選択肢を増やし、地域への行動を始めるためには、出会いと交流、体験の場が必要であることから、「場づくり」を心がけました。

主催事業では、団体が意見や情報交換できる場として「kaco-LAB. 交流サロン」を6月より開始し、「ヨコのつながり」を目指して毎月開催しています。10月には「かこむ」全館を使った、団体の活動に参加・体験して知ってもらう「kaco-LAB. フェス」を初開催し、38団体が参加して登録団体とともにつくりあげることができました。本イベントを通じて、団体同士がお互いを知り、つながりが生まれる機会にもなったと感じています。また、のべ31名のボランティアが参加し企画したことも、コロナ禍からの回復が見られる象徴的なものでした。ボランティアメンバーのアイデアを取り入れ、会場を盛り上げる仕掛けづくり等に積極的に関わってもらうことができました。

日々の施設運営においては、施設運営に関わるボランティアとともにつくる「場づくり」を意識し、みんな

で話し合いで決めて運営するスタイルの定着に努めました。コミュニケーションの機会や自己表現の場が増えたことでそれぞれのやりたいことが話しやすくなり、ボランティアメンバーによる企画提案も増えてきています。

「かこむ」らしさを形成してきた、さまざまな世代、属性の団体や個人と「一緒につくる」という市民参加型の運営は、今後、地域やまちづくりの場面でもますます必要になってくると考えています。これからの地域活動がさらに活発に、発展していくように、「かこむ」運営で培ってきたノウハウを次年度以降は外にも広げていくことを目指していきます。

DATA

開館日数	349日
年間来館者数	180,311名
有料施設稼働率	70.3%
登録ボランティア総数	24名
kaco-LAB. 登録	326団体

交流サロン発足！ 活動をひろげるきっかけをつくる

団体登録制度「kaco-LAB.」では、「ヨコのつながり」を生み出すことを目的に「kaco-LAB. 交流サロン」（以下、サロン）を6月から毎月開催。会員の意見を取り入れ、自由に意見交換や、活動紹介、テーマを決めて意見交換など、交流の場となっています。10月の開催された「kaco-LAB. フェス」後は、会員同士の体験会や活動紹介を希望する声が多く寄せられ、1月からプレゼン形式で活動紹介する内容となりました。サロンを通じて「かこむ」の他の事業へ波及し、会員の「活動を知ってもらいたい」という共通の想いから「東ハリマくらし学校」での広報に関する講座開催につながりました。今後も会員の声を反映し、広範なサポートをしていきます。



kaco-LAB. 交流サロンの様子

個性が生きるボランティア活動を促進

ボランティア活動「運営パートナー」は、コロナ禍を経て、メンバー減少や活動の固定化への課題解決に向けて動きはじめています。一緒に考える過程に重きを置き、持続可能な活動を考える機会をこれまで以上に設けました。フラワーパートナーは、「メンバー募集チラシ」を刷新し、活動の様子を発信する「フラワー通信」を定期的に発行。活動に関する問合せが増え、今後のひろがりに期待ができます。図書パートナーは、定型的な活動から次のステップに踏み出しています。活動方針を「人が集まる、滞在したくなる、図書コーナーをつくる」と決め、目的意識をもった活動の方向づけができました。

パートナーひとりひとりが持つ人生経験やスキル、個性を生かし、さらに活躍できる場を提供していきます。



図書パートナーミーティングの様子

「かこむ」登録団体が集まる年に1度の 体験 & 交流イベント「kaco-LAB. フェス」

交流と体験によって活動を知ってもらい、新たな選択肢を増やしてもらうことを目的に「kaco-LAB. フェス」を10月1日・2日に初開催しました。開催当日は、kaco-LAB. とまちの先生バンクに登録している団体の活動が体験でき、ごちゃまぜ交流会も同日開催しました。2日間で988名の参加者が訪れ、体験という相互のコミュニケーションの場をつくることで、より活動を知りつなげる機会となり、団体間または個人間で新たな出会いや発見を生みだすことができました。企画から当日の運営まで延べ30名のボランティアが関わり、今後も関わりたいと言う声もあがり、ボランティアにとっても体験や経験を通して新たな選択肢を見つけることのできる機会となりました。



団体同士がコラボして活動PRをしている様子

自分らしい生き方・働き方を考える トークセッション & 交流会「HINTO ライブ」

「HINTO ライブ」を開催するきっかけとなった冊子「HINTO」では、「東播磨暮らしを豊かにする情報発信」をコンセプトに、年に1度東播磨地域の人を通して生き方や働き方の事例を紹介しています。今年度から、より一歩目を踏み出すきっかけをつくるため、冊子に掲載した方をゲストに迎え、リアルな場でのトークライブを開催しました。参加者は20～60代と幅広く集まり、どの年代でもこれからの生き方や働き方に関する悩み・興味を持っていることが伺えました。参加者アンケートからは、「人と関わることで、新たな自分を知れることもあることが分かった」「挑戦することに対するハードルが低くなった」など、一歩を踏み出す新たな気づきを得られる機会となりました。



HINTO ライブのトークの様子



かわのまちマーケットの様子



公共空間等を活用したコミュニティづくり支援事業

周辺エリア一体を捉えた市民参加型まちづくり

DATA

かわのまちマーケット

出店数	72 店舗
ボランティア	20 名
来場人数	5,471 名
出店者事前ワークショップ	2 回・94 名

加古川市の公共空間「河川敷」の活用に関わり、加古川市が取り組む「かわまちづくりプロジェクト」への市民参加をサポートしました。その一環として「かわのまちマーケット」を企画実施。河川だけでなく周辺エリアを一体に捉えた市民参加型まちづくりで、駅前商店街をメインエリアに、加古川市や商店街、商業施設と連携し「かわとまちをつなぐ」をコンセプトに運営を行いました。

出店者72店舗、ほか20名のボランティアと2度にわたり、まちあるきや企画ワークショップを行い当日を迎え、5471名の来場者が訪れる大型イベントとなりました。今回のマーケットを通じて、これまでまちに訪れることのなかった新しい層が参加するきっかけを作ることがで

かわのまちリビング 運営支援事業

貸室運営

コーディネート支援

市民参加 / 地域交流の企画運営支援

- ・映画上映会の開催
- ・商店街もちつき大会の実施
- ・カレンダー市の運営支援など

地元の小商いの事業支援

情報発信支援 instagram での広報



かわのまちほいくえんも出店！

きました。また、本企画を通じて公共空間の活用に関する課題を加古川市へ報告提案を行い、今後の協働によるまちづくりを促す支援にもつなげていきます。

主体的に関わる人を増やす場づくり

伊保幼稚園跡地内に「(仮称)だれでも立ち寄りステーション」を設置するにあたり、住民のアイデア出しワークショップの当日運営から、プログラム内容の企画提案、広報、住民に配布する開催報告のデザインまで、高砂市のプロポーザルを受託しました。

当法人のネットワークから直接呼びかけて参加した地域活動団体とSNS発信によって参加した市民や、行政から声かけした近隣住民、障がい者施設や支援団体という幅広い世代・属性の人が参加したことで、「サロンや子育ての相談場所など、気軽に立ち寄り集うことのできる居場所」「展示やコンサートなど、市民が主体となって活用できる

イベントスペース」「子供食堂や緑日など、多様な世代・属性・地域が交流できる拠点」といった、世代や属性を横断した活用アイデアが集まりました。

参加者からは、「就労カフェやります」「近くに住んでいるので定期的に寄ります」といった声があり、今後も施設に主体的に関わってもらえる繋がりができました。

運営者となる団体には、より良い運営がされていくよう「かこむ」をはじめとした市民参加型で運営していく拠点施設のノウハウを提供しました。今後、つながりを運営主体へと引き継ぎ、活用していくことで、市民が活発に利用する施設となっていくことが期待されます。



アイデア出しをしている様子



住民向け報告資料で作成したイメージイラスト

DATA

ワークショップの実施

第1回・第2回 29名・17名
第3回 21名

9地区で地区懇談会をサポート

赤穂市社会福祉協議会から依頼を受け、赤穂市地域福祉推進計画を策定するにあたり、各地区の特徴や住民の声を拾い上げて計画に反映させるため、住民懇談会(ワークショップ)実施の支援を行いました。小学校区単位の9地区につき各一回ずつ住民懇談会を実施しました。

過去2回行われた住民懇談会の内容をまとめ、全地区対象に行われた住民アンケートの中から特徴的なデータを抽出・共有し、前提知識を揃えた上で話し合いました。地区ごとの福祉におけ



地区懇談会で出た意見をまとめを振り返っている様子



目指したい地区の姿を話し合っている様子



地区懇談会の様子

る「目指したい姿」を描き、それを実現するにあたり「課題」となることを洗い出し、「地区住民ができること、社協や行政ができる」ことについてアイデアを出し合いました。



支援団体の活動を数値化したデータや、類似事業団体のデータと比較しながら、支援団体の「らしさ」を言語化している様子

NPO 等活動支援事業

DATA

NPO 法人性暴力被害者
支援センター・ひょうご
組織基盤強化支援ほか

NPO 法人イコロさっぽろ
北海道のフードバンク団体の
ネットワーク組織の立ち上げ支援
ミーティングの進行サポートほか

フードバンクみやざき
代表の関わる全体ミッション策定
各事業の役割整理・言語化の支援

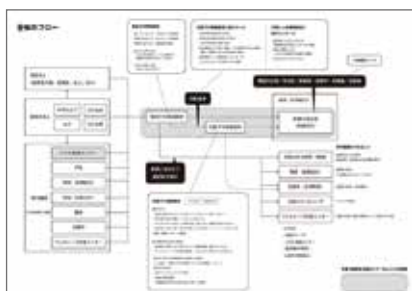
NPO 法人育ちあいサポートブーケ
チームブランディング支援
ワークショップの設計と進行ほか

すっきゃ加古川／加古川観光協会
かがわ検定講座
チラシポスター制作

伴走支援の提供内容がより充実

今年度は、4 団体に向けてチームブランディングや組織基盤強化のための伴走支援を行いました。うち 2 団体は、農林水産省の「フードバンク活動強化緊急対策委託事業」による専門家派遣として、当法人に依頼いただきました。1 団体は、ファンドレイジング・プロモーションの改善を依頼され、複数事業の全体ミッションの策定と、複雑に関係しあう各事業の位置付けや関係性を言語化するためのプロセスを支援しました。もう 1 団体は、北海道初となるフードバンクのネットワーク構築にあたり、方針策定・会則作成などの設立準備支援から、ロゴ・リーフレットの制作を行いました。

もう 1 団体は、今年度も引き続きひょうごコミュニティ財団が実施する有園博子基金の助成団体への伴走支援を行いました。2 年目となる今年度は、支援員の在り方の方向性を定めることをテーマに伴走支援を実施しました。団体方針の策定を定める上で、共通言語や客観的データの不足により議論が積み重ならないことに課題が見えてきました。そこで、類似の団体と過去のデータを比較した分析を実施、業務フローの整理・可視化を行い、主観と事実を切り分けて議論ができるサポートを行いました。NPO 特有の想いが強いがゆえに、感覚の表現による議論に陥りがちですが、事実と定量データを可視化することで論点がクリアになり、結論を出すことへのサポートを行うことができました。



業務フローを可視化した 1 枚図



20周年記念イベント参加者との集合写真

ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局事業

つながりの意義を考える続ける事務局運営

DATA

ひょうごん 20 周年記念
イベント運営
年 1 回（1 月）

総会の運営
年 1 回（6 月）

運営委員会の運営
年 5 回

メーリングリストの運営
通年

その他会計業務等
通年

ひょうご市民活動協議会（以下、ひょうごん）は2002年に発足し、20周年の節目を迎えました。阪神淡路大震災をきっかけに市民組織の力を高める集まりとして始まったひょうごんは、コロナ禍を経験し団体同士のつながりの必要性を再認識したことで、これからのネットワーク団体としてのあり方を模索しています。

今年度はこれまで課題であった会員参加の機会を増やすため、運営への機会づくりに取り組みしました。開催場所による参加のしにくさを解消するための播磨地域での交流会の開催、会員提案の災害対策勉強会のワーキンググループの発足や、実行委員形式で「ひょうごんこれから合宿」、ひょうごん20周年記念イベント「みんなで描く市民活動の未来予想図」の開催など、今年度の特

微的な動きがありました。実行委員として関わった会員の中から、自団体の新しいプロジェクトの発足へとつながった例もあり、会員同士の密な関係性づくりを行うきっかけとなっています。

ひょうごんの運営は、昨年度に引き続き運営委員がチームに別れて事務局を担う体制で行っています。当法人は基盤部分の事務局として、全体に関わる事業の会議運営（運営委員会・総会）、その他会員管理・会計業務を担っています。加えて実行委員の活動を円滑にするための会議運営の工夫なども行いました。団体で得たノウハウをネットワークの中で活かしていきます。



ひょうごんのこれからを考える合宿での一コマ



右上：給食食材を買いに近所のうどん屋さんへ／左上：調理して食べるカワツエビを魚屋さんと観察／右下：編み物教室の様子／左下：長靴でまちの水たまりスポットへ

加古川かわのまち保育園運営事業

DATA

利用園児数	29名
企業主導型保育園 従業員枠利用提携企業数	12社
まちの先生との 保育活動	のべ59回 101名

まち全体が「学びのフィールド」

まちとともに歩んできた1年目の保育を土台として、2022年4月、新たに14名の園児を迎え、29名での保育がスタートしました。近所の商店へ給食食材や日用品のおつかいに出かけたり、梅雨時期にはまちの水溜まりスポットをリサーチして「ながづ散歩」に動しんだり、子どもたちの生活は地域のあたたかな見守りの中で、まちに溶け込んでいっています。

「まちの先生」との交流も盛んになり、22年度はのべ59回も様々な分野の地域の方々が園児と関わってくれました。スパイスを使ったカレー作り、魚の解体、ハープ演奏等々：園内だけでは展開しきれない保育がそこにはあり、園児の関心を学びにつなげてくれています。3組の先生方（運動あそび、就学前の国語教室、編み物）との定期的な関わりの時間も園児にとって楽しみのひとつ！園児の関心がつながる先には、当法人がこれまで培ってきたネットワークが大いに活かされています。

また、日常の保育の中で地域のゴミ拾い活動を実施。園児は道中や公園のゴミが気になり始め、どうしたら減るのかを考えるようになりました。そこで、地域の方々にお願いをし、普段からお世話になっている商店街の3店舗と、ガラス掲示板3箇所に自作のポスターを貼らせてもらえることになりました。このように子ども達は日常のあそびの中でまちとつながり、その中で社会とつながっています。2年の保育実践を通してじわじわとあぶりだされてきた、地域との関わりの中で育まれる子どもの社会性とその連続性。当園の「まち保育」の要として体系化し、更なる進化&深化を目指します。



園児が制作したポスター



お店にポスターを貼る様子

まち散歩から広がる社会

今年度、乗り物が大好きな 2 歳児は、散歩中にすぐ横を通る迫力満点の路線バスに大興奮！運転手さんに手を振ったり、歩道橋から眺めたりし、ついには路線バスを見ることを目的に、2 歳児には少し距離のある駅近くのバス乗り場まで歩くことに。「バスに乗ってみたい？」という保育者からの言葉がきっかけで、子ども達の“憧れ”は、実現可能な“目標”に変わり、乗車を楽しみに、路線バスにより興味を深め乗り方等をイメージし始めました。このように子ども達は、日常的にまちで出会うものから社会とつながり、興味関心を深めています。子ども達の眼差しの先にあるまちの資源を生かし、あたたかな地域の見守りの中で子ども達の社会性の育ちを支えたいと考えています。



路線バスに乗りし運転手と言葉を交わす 2 歳児の様子

この一年を通した まちの先生との体験活動

あみもの体験	昔遊び
バステル手形アート	折り紙あそび
ひな人形飾り	凧作り
運動遊び	夏祭り浴衣着付け
読み書き教室	絵本の読み聞かせ
アート活動	農園じゃがいも掘り
ヘルマンハーブ	あじの蒲焼
リトミック	カワツエビのかき揚げ
人形劇	スパイスカレーづくり
ニジイロクワガタの飼育	ピザ窯でピザ作り
めだかの飼育	栄養のお話
防災教室	巻きすし作り

深まる調理活動

初年度からかわのまちほいくえんでは日常的に調理活動に取り組んでいます。低年齢のうちは、玉ねぎの皮むきやきのこをほぐすなど給食食材の下準備から取り掛かり、2 歳児頃からは簡単なメニューを一連の調理工程を追って作り上げます。今年度はさらに活動が深まり、3 歳以上のグループでは、調理の計画段階から話し合い、役割を決め担っていくことで共通の目的が実現する喜びを味わえるようになってきました。調理活動を通じて秋の遠足の交通費の一部を賄おうと計画した場面も。試行錯誤しながら友だちと一緒に調理する中で、それぞれの持ち味が発揮され、必要なサポートに気づいたり、互いの良さを認め合ったりする場面も見られるようになってきています。



給食の食材を下準備する 1 歳児

まちの先生との豊かな体験活動

今年度は、のべ 59 回、101 名もの地域の方々が「まちの先生」として、園児に関わってくれました。当法人のネットワークを通じて、園児の「やってみたい」が実現し、編み物や凧作り、魚を捌いて命を感じる体験まで、憧れの先生と一緒に様々な本物を体験しました。中でも、夏まつりで子ども自身が提案をした「ピザ屋さんごっこ」は、まちの先生の協力を得て本物の焼き釜でのピザ作りに発展。秋にはかわのまちマーケットで本当にお客さんと呼ぶ体験もし、大きな自信に繋がったように感じています。このような園を越えた地域での学び、人からの学びが、主体的で対話的な学びの場を実現し、子ども達の選択肢や可能性をより豊かにしてくれています。



まちの先生と石窯でピザ作りで挑戦する様子

シーズ機関紙「たのたね」

社会の変化や当法人の活動内容を伝える機関誌「たのたね（これからの「たのしいのたね」の意）」は、24号目を12月に発刊しました。かわのまちマーケットの事業などを紹介しました。



vol.24
これからのたのしい
“社会との出会い”

たのたね探究会

2021年からスタートしたこれからのたのしいのタネを探究する「たのたね探究会」を今年度も実施しました。当会は、職員や理事が未来をひらくために今知りたい必要な知見を学ぶため「自律」をキーワードに、さまざまな専門分野で活躍する講師を招いて不定期で開催しています。



実施日：3月21日
タイトル：一人ひとりが自律的にはたらく
これからの組織・チームのつくり方
講師：NPO 法人場とつながりラボ home's vi
嘉村賢州氏

総会

第21期通常総会の開催

出席者数：正会員総数 40 名中 35 名（うち会場出席18名、オンライン出席1名、委任状6名、書面表決10名）
日 時：6月19日（日）11時00分～12時00分
場 所：かわのまちリビング
審議事項：2021年度（第20期）事業報告の件／2021年度（第20期）決算報告の件
今後の事業展開について／定款変更の件／役員選任の件
報告事項：2022年度（第21期）事業計画の件
2022年度（第21期）予算の件

理事会

第1回	6月6日	総会議案書の確認、法人設立20周年及びかわのまちほいくえん1周年事業進捗報告
第2回	7月26日	2021年度年次報告書の完成報告、法人運営の今後と展望・意見交換
第3回	9月26日	次年度の事業展開・意見交換
第4回	12月12日	給与規定・保育園運営規定の改定検討
第5回	2月1日	正職員合宿の進捗報告、2022年度の決算見込み共有
第6回	3月27日	今後の組織体制、2023年度事業計画・予算の承認

2022年度役員

代表理事	田中 茂	柏木登起	副代表理事	畑本康介	破魔淳司
常務理事	阪口 努				
理 事	幾田一輝 春下充代	井原卓也 柳川詔一	木上裕貴 猫田一城	佐伯亮太	
監 事	高橋 逸	和田谷幸子			
顧 問	高田良彦 中村義弘	田代恭也 船本博一	嶋谷拓雄 堀田照夫		

2023年3月31日 現在

2022年度講師・委員等派遣一覧

柏木登起

粟鹿地域自治協議会	アドバイザー	朝来市粟鹿地域自治協議会アドバイザー
海内地域づくり協議会	アドバイザー	佐用町海内地域づくり協議会
佐用町	アドバイザー	佐用町幕山地域づくり協議会
宍粟市	アドバイザー	宍粟市千種町アドバイザー
宍粟市	アドバイザー	宍粟市繁盛地区アドバイザー
兵庫県地域振興課	委員	地域再生大作戦新たな事業展開検討会
佐用町企画防災課	アドバイザー	佐用町地域づくりアドバイザー
(公財) ひょうごコミュニティ財団	企画委員	有園基金企画委員
(生協) コープこうべ	講師・ファシリテーター	これからの時代に求められる地域活動支援とは
(特非) 丹波ひとまち支援機構	講師	多可町「地域の会議をよりよくするための連続講座」
宍粟市波賀市民局	講師	波賀生推協「ともに生きる地域づくり」講演会
丹波地区社会教育委員協議会	講師	「地域コミュニティと社会教育について～学びの場づくり～」
西宮市	講師	令和4年度西宮市生涯学習研修会
(特非) 男女共同参画ネット尼崎	講師	職員研修

田中 茂

平岡町を良くする会

講演

市民社会へ

柏木輝恵

東播磨県民局	委員	東播磨地域づくり活動応援事業「事例発表会」
(一社) 大学コンソーシアムひょうご神戸	講師	ファシリテーション力を手に入れる講座
(公財) 東京と歴史文化財団アートカウンシル東京	講師	Tokyo Art Research Lab「ジムジム会」第2回
播磨町企画グループ	審査員	令和4年度播磨町まちづくりパートナー事業審査委員会
東播磨県民局県民課	審査員	東播磨地域づくり活動応援事業「公開発表会」
(認特非) コミュニティサポートセンター神戸	ゲストスピーカー	甲南女子大学ゲストスピーカー「国際問題・地域課題の伝え方、伝わり方」
(生協) コープこうべ	講師	地域活動推進部プレ研修
(一財) 明石コミュニティ創造協会	講師	ファシリテーションの基本的な考え方と演習
(生協) コープこうべ	その他	東播磨生活創造センター「かこむ」視察研修
(株) マイファーム	アドバイザー	「北海道フードバンクネットワーク立ち上げ支援」
(株) マイファーム	アドバイザー	「フードバンクみやざきクラウドファンディングに向けた理念整理」
(生協) コープこうべ	講師	組合員・地域活動応援スキル研修（基礎編）

小笹雄一郎

かさいまちあそび大学	講師	今すぐ身につけよう 企画力と実行力
(特非) ブラッツ	講師	但馬コミュニティ協創会議 2022
東播磨障がい者施設ネットワークきずな	講師	きずな研修ワークショップ
小野市うるおい交流館エクラ	講師	SNSを活動の味方に。～NPO・市民活動団体のスキルアップセミナー～
いなみ野学園大学院 1 年	講師	NPOと地域コミュニティ支援

津久井あゆみ

(公財) 兵庫県生きがい創造協会	講師	コミュニケーション講座
------------------	----	-------------

川口和也

(公財) 兵庫県生きがい創造協会	ゲスト	NPO 演習講座
------------------	-----	----------

菅岩あゆ子

稲美町教育委員会	講師	稲美町生涯学習推進員研修会
----------	----	---------------

石井加納子

兵庫県立加古川南高等学校	講師	キャリアデザイン授業
--------------	----	------------

柏木登起・阪口努・小笹雄一郎・木上裕貴

(株) サーベイリサーチセンター	ファシリテーター	赤穂地域福祉推進計画WS
------------------	----------	--------------

柏木輝恵・小笹雄一郎

きずなネットワーク	講師	きずなワクワク会議
-----------	----	-----------

阪口努・川口和也

(公財) こども財団	ファシリテーター	子育て応援メッセ実行委員会
------------	----------	---------------

津久井あゆみ・菅岩あゆ子・坪根理恵

(公財) こども財団	講師	あかし夢文庫交流会
------------	----	-----------

活動計算書（簡易版） 2022年4月1日から2023年3月31日まで

（円）

	科 目	2022年度実績	2021年度実績	増 減
経常増減額	受取会費	365,000	409,000	△44,000
	受取寄付金	396,241	328,884	67,357
	受取助成金等	64,791,947	44,428,534	20,363,413
	事業収益			
	受託料収益	36,477,600	28,404,600	8,073,000
	利用料収益	17,555,172	13,894,619	3,660,553
	自主事業収益	4,773,195	5,592,365	△819,170
	事業収益計	58,805,967	47,891,584	10,914,383
	その他収益計	817,498	2,188,642	△1,285,644
	A 経常収益計	125,176,653	95,161,144	30,015,509
	事業費			
	(1) 人件費	72,715,670	58,157,927	14,557,743
	(2) その他経費	32,252,685	34,147,477	△1,894,792
	事業費計	104,968,355	92,305,404	12,662,951
	管理費			
	(1) 人件費	4,554,932	3,800,457	754,475
	(2) その他経費	3,490,868	3,237,349	253,519
	管理費計	8,045,800	7,037,806	1,007,994
	B 経常費用計	113,014,155	99,343,210	13,670,945
	E 当期経常増減額(A-B)	12,162,498	△4,182,066	16,344,564
経常外増減額	過年度損益修正益	869,290	0	869,290
	C 経常外収益計	869,290	0	869,290
	固定資産除却損	0	1	△1
	過年度損益修正損	526,135	0	526,135
	D 経常外費用計	526,135	1	526,134
	F 当期経常外増減額(C-D)	343,155	△1	343,156
正味財産増減	G 税引前当期正味財産増減額(E+F)	12,505,653	△4,182,067	16,687,720
	H 法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	0
	当期正味財産増減額(G-H)	12,423,653	△4,264,067	16,687,720
	前期繰越正味財産額	29,586,886	33,850,953	△4,264,067
	次期繰越正味財産額	42,010,539	29,586,886	12,423,653

貸借対照表（簡易版） 2023年3月31日現在

（円）

（円）

	科 目	2022年度実績		科 目	2022年度実績
I 資産の部	1 流動資産		II 負債の部	1 流動負債	
	小口現金	619,373		未払金	7,887,946
	普通預金	35,101,819		未払法人税等	1,391,900
	定期預金	0		前受金	3,905,015
	未収金	4,839,559		預り金	3,063
	前払金	95,900		仮受金	4,496
	流動資産合計	40,656,651		流動負債合計	13,192,420
	2 固定資産			2 固定負債	
	有形固定資産	55,703,808		固定負債合計	41,230,000
	投資その他の資産	72,500		負債合計	54,422,420
	固定資産合計	55,776,308	III 正味財産の部	正味財産期首残高	29,586,886
	資産合計	96,432,959		当期正味財産増減額	12,423,653
				正味財産合計	42,010,539
				負債及び正味財産合計	96,432,959

2023年度事業計画

昨年、当法人は法人設立 20 周年という節目を迎え、記念行事では多くの関係各所みなさまにお集まりいただくことができました。20 年という長きに渡り活動が続けることができたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、21 年目となる今年度は次のステージへと歩みを進めていきます。昨年度は当法人の収益の大きな柱である、東播磨生活創造センター「かこむ」部門とかわのまちほいくえん部門の大きく 2 つの部門体制で組織運営を行ってきましたが、今年度からは自主事業として行ってきた組織支援の事業を 3 本目の柱として位置づけ、「まちづくり部門」「まち学び部門」「組織支援部門」の 3 部門制へと再編します。

2023年度の重点的な取り組み

組織支援事業の強化

主要事業：伴走型組織・プロジェクト支援

組織・団体への支援依頼が、コロナ禍の落ち着きとともに増え始めています。2023 年度からは、これまで当法人で培ってきたチームブランディングやチームビルディング、主体形成を目指すファシリテーションといったノウハウを組織支援事業として 1 つにし、事業の柱として本格的に注力していきます。まずは、部門として職員の配置体制を明確にするとともに、非営利セクターを中心とした組織のニーズ把握や対象となる層へのアプローチを展開し、新規事業の基盤を整えます。

まち（公共空間）に市民参加を広げる 場づくりからまちづくりへ

主要事業：東播磨生活創造センター「かこむ」の運営
かわのまちリビング支援

市民参加型公共施設「かこむ」を拠点に場づくりを行い、人と人がつながることで活動が生まれ、つなぐことで活動を育んできました。2023 年度からは、「かこむ」での場づくりだけにとどまらず「まち」への広がりをつくるタイミングと捉えています。私たちの暮らしに身近な場、公共空間を市民参加でつくりあげていくことを「まち」に広げます。より多くのつながりと、関係性を育み、まちのなかで活動が育まれていく、市民参加型のまちづくりを展開していきます。まちのコーディネーターの役割として、場づくりからまちづくりへ、次のステージに挑戦します。

「まち」に関わる人を増やす ハブとなる園づくり

主要事業：かわのまちほいくえんの運営

2 年目の運営で子どもたちがまちで育っていく保育活動が定着し、子どもたちが主体的にまちの資源（人・場所・モノ）に触れていく様がごく自然に日常のなかで見られるようになりました。3 年目となる 2023 年度は、園をきっかけに「まち」に関わる人が増えるような、まちのハブとなれる保育園を目指し、これまでの保育活動をまちの子どもたち・保護者に開いていく活動を展開していきます。

1 まちづくり部門

東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営
企業等へのコーディネート事業
市民参加型まちづくり支援事業
Kako-style2事務局事業
講師・ファシリテーター派遣

2 まち学び部門

かわのまちほいくえん運営事業
学校探究学習・キャリア教育支援事業
東播磨人・まちわくわく学び塾事業
インターンシップの受け入れ事業
講師・ファシリテーター派遣

3 組織支援部門

NPO 等組織支援事業
ひょうご市民活動協議会事務局事業
講師・ファシリテーター派遣

4 シーズのジリツ（管理部門）

マネジメント体制の強化
「たのたね探究会」の開催
「機関誌たのたね」の発行



シミズシーズ 2022 度年次報告書

発行元／問い合わせ先

NPO法人 **シミズシーズ**

〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 363-4

Tel : 079-422-0402 Fax : 079-421-0407 Mail : info@npo-seeds.jp Web : www.npo-seeds.jp